

動学的 45 度線モデルにおける財政政策

(Fiscal Policy in a New Dynamic Keynesian Income-expenditure Model)

北九州市立大学 田中淳平¹

(Jumpei Tanaka, The University of Kitakyusyu)

Abstract

教科書的な 45 度線モデルに、家計の消費・貯蓄決定における動学的最適化行動を導入することで新しい動学的 45 度線モデルを構築し、その枠組みを用いて主として財政政策のマクロ効果について検討する。標準的な教科書モデルでは減税乗数は 1 を超え、均衡予算乗数は 1 に等しいが、ラムゼイ型の無限視野を持つ家計の最適化行動を考慮すると、減税乗数は 0 となり、均衡予算乗数も一般に 1 未満、条件によっては負の値になることを明らかにする。また、本稿の枠組みを Blanchard (1985) 型の連続時間世代重複モデルへと拡張することで減税乗数の大きさを再検討し、それが外生パラメーターのどのような関数として規定されるかを明らかにする。

Key Word : 45 度線モデル、ラムゼイモデル、世代重複モデル、景気循環、財政政策、乗数

JEL Classification : D50, E12, E13, E60

¹ E-mail: j-tanaka@kitakyu-u.ac.jp